

4. 公表について

「1. タイトル（応募名）」および「2. 応募者（連絡先を除く）」を図書館総合展のホームページ等で公表することに、

同意します

同意しません

（あてはまるものを○で囲んでください。）

5. b) 取り組みの趣旨と目的 ※枠の大きさは適宜調整してください。

九州大学附属図書館では、「Cute.Guides」という名称で、Web上の学習ガイドを公開している（図1）。「Cute.Guides」は、図書館における発信型情報サービスのうち、Web上のパスファインダーとして位置づけられるもので、図書館に来館していない利用者に対しても情報を提供できる、オンライン上の関連情報にリンクできるといったメリットがある。受動的な質問回答サービスを補完する、能動的レファレンスサービスとして、利用者の課題解決を支援することを目的に、平成25年に開始し現在も継続している取り組みである。

「Cute.Guides」のガイド記事は、大学院生の図書館TAであるCuter（きゅうたー）が中心となって執筆し、専門性の高いトピックに関しても、詳細かつ分かりやすい情報提供を実現している。図書館職員と学生の協働により多様なガイド記事を作成しており、ガイドの点数、アクセス数ともに年々増加している。

さらに、令和元年7月には、国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築する「レファレンス協同データベース」に、「Cute.Guides」のガイド記事152件を、「調べ方マニュアル」として公開した。「調べ方マニュアル」へのデータの一括登録は、国立大学では初の事例で、登録したガイドは「国立国会図書館サーチ」でも検索が可能となった。ガイドの視認性向上が、九州大学附属図書館が提供するレファレンスサービスの更なる利用促進につながるものと展望している。



図1 : Cute.Guides: <https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/>

6. b) 図書館の取り組みの詳細

※枠の大きさは適宜調整してください。

九州大学附属図書館は、九州大学の「教育の質向上支援プログラム（EEP）」による取り組みの一環として、平成 25 年 3 月に「Cute.Guides」を正式公開した。ガイドのプラットフォームとして、Springshare 社の LibGuides を利用している。LibGuides は世界で 6,000 館以上の図書館が導入しているサービスで、あらかじめ用意された記事のひな型を用いて、主題別ガイドやおすすめの図書リスト等を感覚的な操作で Web 上に作成できるほか、LibGuides を利用して作成した他のガイドを再利用する機能も備えている^[1]。

「Cute.Guides」のガイド記事作成においては、図書館 TA(Cuter)が中心的な役割を果たしている（図 2）。図書館 TA(Cuter)は、図書館職員と協働して九州大学における学習支援に取り組む大学院生である。先述の EEP の取り組みの一環として、平成 24 年 3 月から「図書館学習サポーター」としての活動を開始し、平成 27 年 12 月に大学における授業外学習を支援する「図書館 TA」として位置づけられた。現在は、「九州大学ティーチング・アシスタントに関する要項」において定められた、全学生を対象とする正課外での学習等の教育支援業務を行っている。図書館 TA(Cuter)の主な活動内容は以下の 4 点で、図書館という学習空間でのピアサポートにより、学生が気軽に学習上の悩みを打ち明けられる身近な存在として活躍している^[2]。



図 2：図書館 TA(Cuter)

<図書館 TA(Cuter)の主な活動内容>

1. 図書館内の学習相談デスクにおける質問対応
2. Web 上の学習ガイド「Cute.Guides」の作成
3. 図書館で開催する講習会等の講師および補助
4. 学生交流イベントの企画・実施

平成 31 年 3 月 31 日現在、173 点のガイドを「Cute.Guides」から公開しており、このうち 125 点が図書館 TA(Cuter)の作成したガイドである。図書館 TA (Cuter) が、学生ならではの視点で、自身の専門や経験を生かしたガイドを作成している点が「Cute.Guides」の大きな特徴である。一方、「九大コレクションの使い方」「狩野亨吉と九州大学」のように、図書館が提供するサービスの説明や所蔵資料解説など、図書館利用指導の一環として、図書館職員が作成したガイドも数多い。

各ガイド記事の内容は、「判例の探し方」「はじめての学会発表」のような学習・研究スキルに関するもの、「DNA って何だろう?」「ウェルビーイングのためのデザイン」のような図書館 TA(Cuter)の専門分野に関するもの、「理系でも獲れた! 独学で TOEIC を 900 点まで上げる方法」「設計事務所のお仕事」のような資格や進路に関するもの、「九大 100 冊」「図書館食堂」のような読書案内と多様である。学生と図書館職員の協働により、バラエティに富んだ情報提供が可能となっている。

<学習・研究スキルに関するガイド>

- ・ 判例の探し方 ～はじめの一步～ <https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/law/hanrei>
- ・ はじめての学会発表-ある歯学大学院生の体験記-
<https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/presentation>

<専門分野に関するガイド>

- ・ DNA って何だろう？ <https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/dna>
- ・ ウェルビーイングのためのデザイン <https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/wellbeing>

<資格や進路に関するガイド>

- ・ 理系でも獲れた！独学で TOEIC を 900 点まで上げる方法
https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/rikei_TOEIC
- ・ 設計事務所のお仕事 建築家になりたい方へ
<https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/to-become-an-architect>

<読書案内>

- ・ 九大 100 冊 <https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/qu100>
- ・ 図書館食堂 Bibliotheca <https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/book-food>

<図書館利用に関するガイド>

- ・ 九大コレクションの使い方 https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/how_to_use_Qcollection
- ・ 狩野亨吉と九州大学 <https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/kano>
- ・ デジタルギャラリー —電子展示で見る九大の貴重資料—
<https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/gallery>

平成 30 年度に最もアクセスされたガイド「微生物の世界（検査専攻向き・細菌編）」は 1 年で 10 万件以上のページビューを獲得した（図 3）。Web 上のパスファインダーにより、レファレンスサービスの一環として、図書館に来館していない利用者に対しても情報提供できている。



図 3：平成 30 年度に最もアクセスされたガイド（104,940 ページビュー/年）

微生物の世界（検査専攻向き・細菌編） <https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/bacteriology>

いずれのガイドも、学部生などの初学者に分かりやすい内容とすることを心がけており、理工系や医学系の専門性の高いトピックに関しても、詳細かつ分かりやすい情報を提供している。また、初学者による自律的な学びと図書館の利用を促すために、各ガイドに図書館所蔵資料へのリンクを設けている。さらに、内容の信頼性を保つため、ガイドには根拠となる情報源や記事の執筆者を明記している。情報源には図書館資料だけではなく、図書館 TA(Cuter)と図書館職員が確認し、信頼性があると判断した Web 上の情報も含む。

学習ガイドの質を保証する取り組みとして、公開前には、図書館職員および図書館 TA(Cuter)同士で査読を実施している。救命処置のように生命に関わる医療系の一部のガイドについては、十分な安全性を担保するため、教員からもチェックを受けている。一旦公開したガイドについても、定期的な内容チェックでコンテンツの正確性と最新性を保持するよう努めている。このような、サービスを運用する中で確立されたガイドの管理運営方針を明文化するため、平成 31 年 4 月 21 日に「Cute.Guides 運用指針」を策定した。運用指針では、ガイド公開までの手順や、ガイドの著作権が附属図書館に帰属すること等を定めている。

ガイドの質を保証するもう一つの取り組みとして、「Cute.Guides 大賞」を毎年開催している。これは対象とする期間内に図書館 TA(Cuter)が新たに作成したガイドについて、図書館 TA(Cuter)および図書館職員による投票で優秀作を選定し、表彰を行うもので、選定されたガイドにはタイトルの冒頭に★を表示し目印としている(図 4)。「Cute.Guides 大賞」の実施のメリットには、以下の点が挙げられる。

< 「Cute.Guides 大賞」の実施のメリット >

- ・ ガイドの作成や図書館 TA(Cuter)としての業務に対するモチベーションが向上する
- ・ 良いガイドに対する評価を図書館職員と図書館 TA(Cuter)が共有することで、ガイド作成の指針となる
- ・ 良いガイドが量産されることで、アクセス数の高いガイドが増える



図 4 : 平成 30 年度 Cute.Guide 大賞 最優秀賞 ★英語論文の読み方

https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/paper_reading

7. 応募事例がもたらした主な成果・効果（a), b)ともに）

※枠の大きさは適宜調整してください。

「Cute.Guides」の運用開始以来、公開するガイドの点数、アクセス数はいずれも年々増加している。平成30年度は、平成26年度と比較して、ガイドの点数は約2倍、アクセス数は約8倍となった（図5）。

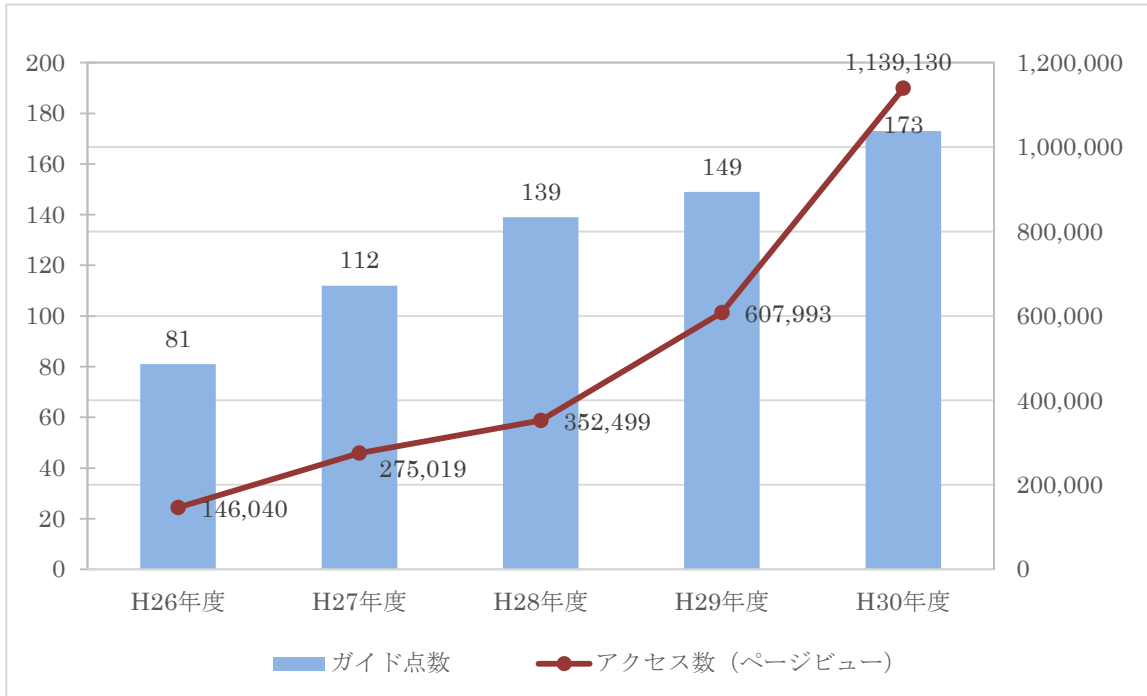


図5：ガイド点数／アクセス数 年度別推移

内容に対する評価も高く、医学系Cuterが作成したガイド『はじめての実験ノート』は、研究不正防止対策の参考教材として、科学技術振興機構の研究公正ポータルからリンクされた（図6）。



図6：科学技術振興機構 研究公正ポータル>防止対策>機関の取組>国立大学

https://www.jst.go.jp/kousei_p/efforts_national_univ.html

また、LibGuides を使用した国内先行事例として、現代図書館情報学シリーズ『改訂 情報サービス論』に、以下のとおり取り上げられた^[3]。

“LibGuides”は、高機能なパスファインダー作成ツールというだけでなく、図書館やローカルコミュニティの中で、ガイドの価値や、ガイドの作成者が持つ専門性をつなげて最大限に活用できるサービスとなっている。日本では九州大学附属図書館が先行しており、教材作成支援ツールとして位置づけ、図書館員だけでなく学生サポーターや教員もコンテンツを作成して、内容を増やしている。

九州大学の図書館内では、図書館 TA(Cuter)による活動成果を公開・保存するプラットフォームとしても活用している。例えば、図書館 TA (Cuter) が考えて設定したテーマに関するおすすめの本を選び、紹介文と共に図書館内に展示する企画「Cuter 本棚」では、各回の推薦図書と紹介文を「Cute.Guides」上で公開している(図7)。



図7: Cuter 本棚～九大図書館で読めるオススメの一冊～: 新入生に読んでほしい本

https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/cuters_selection_books

以上のように、「Cute.Guides」は、図書館職員と学生の協働という特徴を生かしつつ、能動的な情報サービスにより利用者の課題解決を支援することで、レファレンスサービスの裾野を広げている。

8. 今後の課題や展望（応募したレファレンスサービス事例を踏まえ、今後のレファレンスサービスに対する課題や展望を記入してください。） ※枠の大きさは適宜調整してください。

今後は、九州大学の学内向けサービスにとどまらない、学習・教育・研究を幅広く支援するサービスとして拡大していきたい。

新たな取り組みとして、令和元年7月に、国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築する「レファレンス協同データベース」に、学習ガイド「Cute.Guides」の各ガイドを"調べ方マニュアル"として公開した（図8）。公開中のガイド152件へのリンク記事を一括登録し、以後、新たに公開するガイドについても随時追加する予定である^[4]。

"調べ方マニュアル"へのデータの一括登録は国立大学では初の事例である。公開開始した令和元年7月の1か月間で、「レファレンス協同データベース」一般用システムでの参照数は計4,173件にのぼり、「国立国会図書館サーチ」でも検索が可能となるなど、ガイドの視認性が大きく向上した。これを契機として、九州大学附属図書館における学習・教育支援および図書館TA(Cuter)の活動成果が、一般市民の生涯学習や地域の課題解決に一層活用され、サービスの利用促進につながるものと展望している。



図8：レファレンス協同データベースでの画面表示例

http://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=man_view&id=2000026313

今後も新たなガイド記事を継続的に作成し、「Cute.Guides」による能動的なレファレンスサービスを拡充したい。

参考文献)

- [1] 天野絵里子「つながる LibGuides : パスファインダーを超えて」『カレントアウェアネス-E』 No. 234, E1410, 2013, <http://current.ndl.go.jp/e1410> (2019年8月21日閲覧) .
- [2] 兵藤健志, 渡邊由紀子, 「図書館職員をハブとした情報リテラシー教育の展開 -九州大学の実践をもとに-」『大学図書館研究』, Vol. 105, 2017, p. 50-60.
- [3] 山崎久道, 原田智子『改訂 情報サービス論』現代図書館情報学シリーズ 5, 東京: 樹村房, 2019, p. 162.
- [4] 「九州大学附属図書館、学習ガイド“Cute.Guides” 152件をレファレンス協同データベースの「調べ方マニュアル」に一括登録」『カレントアウェアネス・ポータル』
<http://current.ndl.go.jp/node/38542> (2019年8月21日閲覧) .